

## まえがき

安定した職業に就き、周りから見れば家庭円満、穏やかでやさしい父、やさしい母で子どもたちはすくすくと成長している。

そんな家庭が突如崩壊することがあります。

エリート官僚といわれた人が自分の子どもを殺めるといふ事件が話題になったことがありました。

なぜそのようなことが起きるのでしょうか。

終身雇用、年功序列、夫は毎日夜遅くまで働き、良妻賢母の妻は専業主婦として子育てをしながら夫の帰りを待つ。

私が生まれた1960年代の高度成長期には当たり前だったそんな価値観が令和の時代には大きく変

化しています。

人とのコミュニケーションに大きな問題を抱える私でも、昭和の時代であれば無事に定年まで勤めあげ、老後は十分な年金をもらいながら趣味を楽しんでいたことでしょう。

いい大学を出て安定した職業に就き、結婚して子どもを育てることが人としてあるべき道だと信じていた私は、必死で勉強して国立大学を卒業後、国税局に入りました。

彼女いない歴37年で会話もろくにできない人間が素晴らしいパートナーにめぐりあい、2人の子どもが誕生したところまでは設計図通りの人生でした。

ところが、本当の自分を隠し我慢に我慢を重ね感情を封印したままでは子どもの成長とともに起きる家庭内の問題に対処することはできませんでした。

仕事においても、時代の変化とともにコミュニケーション能力が欠如したままでは立ち行かなくなり、人間関係の問題に悩み、もがき苦しみました。

人が人として生きていくうえで人間関係の悩みはつきものです。

夫婦関係、親子関係、職場での人間関係、DV、不登校、ひきこもり、パワハラ、問題が起きる人のところには次々と問題が起きます。

そして、必ず考えるのが「相手に変わってほしい」ということです。

でも、相手は変わってくれない、まったく聞く耳を持ってくれません。

私もかつてはそうでした。

人間関係に苦しみ、夫婦関係、子どもの不登校、パワハラ、さまざまな問題に悩む中で誰にも相談できず、この世に生まれてこなければよかったのと思っていました。

そんな私が人生を楽しむことができるようになった経験を本にしました。

人はいつからでも人生を変えることができます。

今が苦しければ苦しいほど幸せになるチャンスがたくさんあります。

この本を通して人生を変えたい人、自分や家族の将来に不安がある人の悩みを解決するヒントを見つけるてほしいと思います。

最後まで読んでいただけたら幸いです。